

# 脱・無縁社会への挑戦

## 最終回 フランスの隣人祭り

■隣人祭りとは

あなたは最近、ご近所と交流があるだろうか？表札の無いマンションが増えるなど、隣人とのつながりは希薄になる一方ではないだろうか？

地域コミュニティの衰退が言われて久しいが、フランスでも独居老人の孤立死や若者の引きこもり、働き盛り世代の地域とのつながりの少なさが問題になっていた。

そうした中で、「隣人祭り」という挑戦が始まっている。隣人祭りは、5月の最終金曜日、近所で簡単な料理や菓子、お茶やワインを持ち寄り、近隣の交流を深めるイベントだ。今まで知らなかったご近所同士の話しが弾み、仲良くなるきっかけとなる。

たり、高齢者の買い物を手伝ったりと共助の力でコミュニティー再生に寄与する。

隣人祭りは、1999年パリの一画でたった30人の参加者で始まったが、各地の自治体の賛同を得てフランス全土で開催されるようになり、さらに世界に広が

り、2010年時点で32カ国約1000万人が参加する世界的なイベントになっている。日本にも隣人祭りの支部が開設されている。

■NPO代表の熱い思い

これを推進するのがNPOの欧州隣人連帯協会だ。代表のペリファン氏は語

る。「隣人祭りを立ち上げたきっかけは、私自身が孤立死の発見者になったことだ。現代の社会では、ネットで見ず知らずの人と、いとも簡単に友達になろうとするのにお隣さんには声をかけようと思わない。おかしなことです。社会のつながりには、家族、友人、

職場がありますが、隣人は非常に大切な存在なので「

ペリファン氏は、「孤立や無関心という現代社会の問題と戦いたい」と熱く語る。

「隣人の連帯感が深まり、人間らしさが溢れるコミュニケーション。そんな未来を目指しているのです」と目を輝かせる。

■隣人祭りの効果〜市民・行政・企業の三方一両得

隣人祭りは、市民だけでなく行政や企業にもメリットをもたらす。

コミュニケーションの衰退や独居老人の見守りコストに悩む自治体にとっては、隣人祭りが予防の役割を果たす。また祭りで地元の商店街やスーパーでワインやチーズの購入が増える。隣人の協力で郵便の不在配達のコストが軽減できる。スーパーや郵政公社が隣人祭りのスポンサーだが、彼らは社会貢献だけでなく実ビジネスで有益と考えているのだ。

隣人祭りは、市民・行政・企業の三方一両得をもたらしている。

## 社会のつながりで「隣人」を再評価

■成功の秘訣  
〜一歩踏み出して実行する

もちろんこうした取組みには様々な課題がある。隣人がプライバシーを公開することで、逆に何かトラブルがあったらどう

するか？懸念材料は常に存在する。

NPO代表のペリファン氏は語る。「世の中に100%安全などありません。それよりもリスクや失敗を恐れて何もしない方が問題であり、それは罪と言えるでしょう」

「こうしている間にも、社会の孤立や無関心は進行しているのです。まずは一歩踏み出して実行することです」

隣人祭りは、日本にも多くの示唆を与えている。日本でも昔から隣組や町内会など隣人を大切にする文化がある。個人主義の国として知られるフランスの挑戦が、元来和の国である日本に出来ないはずはない。出来ない理由を理論整然



▲隣人祭りNPO代表のペリファン氏と筆者

と並べても何も解決しない。ペリファン代表の「リスクを恐れて何もしないことは罪」、「まずは実行すること」という言葉が全てを表している。

さて、あなたは脱・無縁社会に向けてどう行動するだろうか？



三菱総合研究所プラチナ  
社会研究センター  
松田智生主任研究員

慶応義塾大学法学部卒業。専門は新産業創造・組織活性化。2010年新たな政策提言プロジェクト「プラチナ社会研究会」立ち上げ。シルバーよりも上質なプラチナ社会・産業像を研究。松田氏のアドレス [tmatsu@mri.co.jp](mailto:tmatsu@mri.co.jp)  
プラチナ社会研究会アドレス <http://platinum.mri.co.jp/>